

情報通信月間参加行事 行事報告書

行事コード	Bc05M	行事名	IT化普及促進講演会	
日時	平成19年6月7日(木) PM15:20~		場所	仙台市青葉区 パレスへいあん 6F
展示会等会場来場者数				
講演会等参加人数	174名			
Webアクセス数				
主催団体	(社)宮城県情報サービス産業協会 東北情報通信懇談会			
実施行事概要	<p>1.演題 「最近の地震・津波災害と情報の役割」</p> <p>2.講師 東北大学大学院工学研究科 付属災害制御研究センター教授 今村文彦氏</p> <p>3.概要 地震・津波災害が多発する今日、10年以内の発生確率が60% (30年以内なら99%)と、世界一確率が高い宮城県沖地震・津波を抱える当地では、世界に先駆けた津波防災対策が進められ、その中でも沖合や沿岸での広域的な津波観測、行政区や組織枠を超えた情報の共有化と活用が図られている。今回は、防災に情報通信(IT)が果たす役割や課題、また、被害の最小限化に向けた情報の活用や防災教育、地域との連携への期待などについて、最新の研究成果やトピックなど豊富な事例をもとに講演を頂いた。</p> <p>4.入場料 無料</p> <p>5.対象者 県内一般企業および当協会会員</p>		<p>実施結果に対する感想・反省等</p> <p>・近い将来高い確率で宮城県沖地震が発生する旨の報道が繰り返されている中で、地震・津波に関する研究の第一人者を講師にお招きするという事で、広い関心が寄せられ、会員のみならず一般市民からの聴講申込みもあり、当日はTV取材も入る状況となった。</p> <p>・講演は第一線の研究・調査の成果が豊富な映像情報も交えて紹介され、受講者からは津波災害の特殊性並びに災害情報の重要性についての感想が聞かれた。</p> <p>・防災、災害予知のためのソフト面として情報・通信の技術が広く活用されていること、また、災害情報では正確性、迅速性、詳細性は当然として「タイミング」「メッセージ性」への配慮、さらに「人間の持つ認知バイアス」の克服が情報を活かすポイントとなることについて認識を新たにした。特に、自分自身が生命財産に係る災害情報を突然受け取る立場になった場合、的確な対応が出来るか否か、何をなすべきかについて殆ど無策であることを反省すると共に、情報のタイミング、メッセージ性の重要さ難しさについて考えさせられるところが多かった。</p>	

